

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2795000286		
法人名	株式会社コミュニティハウス・夢		
事業所名	グループホームみんなの家・福ちゃん		
所在地	大阪府東大阪市六万寺町1丁目14-20		
自己評価作成日	平成 28年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 7月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000286-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 6月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの共通理念である「人を人として尊び、共に学び、共に支え合う姿勢を持ち続ける事」互いに支援する、されるとの関係ではなく、共に生きる姿勢を大切にしています。そのことを踏まえ、私たちに出来る事は何か、それは困ったときに相談できる関係作り、暮らしを支え合う関係を構築していくこと、専門職だけでなく地域で暮らす住民の方々と、暮らしを支えるネットワークを構築していくことであり、それをグループホームの運営を通じ行っていきたく思います。みんなの家・福ちゃんでは共に支え合い、最後までその人らしさを失わないように最期を迎えて欲しいそんな思いで笑いの絶えない賑やかなグループホームを創っていきます。福ちゃんが大切にしている事①一日一回は大笑いする事。共に楽しみ共に喜び大きな家族になる事。②特にプログラムは用意せず、無理せず自然に暮らす。③一人ひとりの思い、やりたいこと等、個人のリズムを大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家族・本人の思いを共に地域で支え合い、受け入れることのできる居場所が地域にあれば」との思いが、ケアに活かされたホームです。昨年より共生型に取り組み、宅老所や放課後等デイサービスの子どもたちとの関わりが増えました。ゆったりした時間の流れの中で笑いと共に、子どもたちや地域の人たち、多くの人たちとの関わりを通して、相互の思いやりの気持ち、喜怒哀楽の感情表出など、感性豊かな生活の場となりました。ホームで大切にしている「1日1笑」を具現化し、ホームには笑い声が響いています。できることを見極めながら、本人が選択できる場面づくり、自由な暮らしを支え、一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり利用者に向き合っています。職員のケアへの意識が高く、「ケアの本質を見失うことがないよう、ケアの仕事を他者に誇れるように」と、理念の具現化に向けて日々研鑽しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>コミュニティハウス・夢としてデイ・グループホーム共通理念となっている、『人を人として尊び、共に学び、共に支えあう姿勢を持ち続けること』と互いに支援する、されとの関係でなく、共に生きるという姿勢を大切にし、その思いを職員間で共有することにより、より良い介護を実践できるように努めています。</p>	<p>『人を人として尊び、共に学び、共に支えあう姿勢を持ち続けること』を基本理念として、フロアに掲示しています。理念をもとに「1日1笑」をグループホームのサブ理念としています。管理者は、理念を具現化するために職員にその思いを伝えています。また、昨年より高齢者も障がい者も子どもたちも赤ちゃんも「共に楽しみ、共に喜び、大きな家族のようになること」を目指して共生型デイサービスを同敷地内に開設しました。日常的に子どもたちとの触れ合う機会ができ、相互に思いやる心、共生の実践に向けて取り組んでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	約4年が経過し地域の方々にも施設の存在が浸透しました。季節の行事などは近隣の方々から開催日の問い合わせを頂けるようになりました。 地域の回覧板を入居者の方々が届けられ事などを通し交流を図れています。地域の祭りの時には子供神輿がホームの前まで来てくれ、地域の子供達との交流も図れています。	開設後4年を迎え、近隣への散歩や買い物、運営推進会議を通じて地域との繋がりが広がってきました。自治会に加入しており、祭りなど地域行事への参加、近隣の人が立ち寄ったり、子どもたちがホームに遊びに来ることも日常となりました。また、野菜や花、タケノコの時期には、たくさんの差し入れが届き、利用者と共に食を楽しみました。少しずつ、地域住民との関係が構築されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報誌などで認知症ケアの話題を発信しています。 又、地域包括の関係者との交流をとおして支援の方法を学んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い。事業所の取り組みやサービスの状況を包み隠さず報告し、会議の中での意見やアドバイスをサービスの向上に生かす努力をしています。 推進会議を通し地域包括の方々などにも協力して頂ける環境を作ることができています。	運営推進会議は、2カ月に1回開催し記録に残しています。構成メンバーは、利用者、家族、地域包括支援センターの職員、老人センターの職員、町会長、婦人部代表、認知症コーディネーター相談員です。また、ホームで看取った利用者家族の方も、時々参加しています。運営推進会議では、ホームでの様子や行事、レクリエーションなどについて報告しています。運営推進会議を通じて、地域のオルガン演奏者のボランティア訪問もありました。また、会議で「リスクがあっても外出の機会を増やしてほしい」などの要望については、声を具現化するよう取り組んでいます。また、運営推進会議録は参加者に分かりやすいように、字の大きさや文面にも工夫をして、欠席者に送付しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会へは毎回出席し、十分な連携を図り、協力関係を構築し、その都度相談を行っています。	グループホームの事業所連絡会に参加し、他の事業所と連携を図っています。日常的に不明な点、困りごとがあれば、市へ相談しています。また、事故の発生時には、迅速に市へ報告し、必要な対応をしています。自己評価、外部評価の結果及び目標達成計画は、1ヵ月以内に市へ報告しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時に身体拘束をしないケアを説明し、被介護者を自分に置き換え、されて嫌なことをしないと意識し、職員は常に拘束に繋がらない介護方法について話し合い取り組んでいます。また、玄関の施錠はせず、一人で出て行かれる事を防ぐために、扉にセンサーはつけており、外出を希望された際にはスタッフが付き添っています。	利用者の人権やプライバシーの保護、身体拘束防止についてのマニュアルを作成しています。管理者は、「自分がされて嫌なこと、言われて嫌なことはしない」「発語がないから、何も分らないから」と思って対応しない」「人生の先輩として利用者への対応をする」など具体的に伝えていきます。また、市の主催する高齢者虐待防止研修会への参加や学習会も実施し、職員の身体拘束防止への理解を深めています。ホームでの暮らしは家庭での暮らしの延長と捉え、玄関は開錠しています。利用者が外に出ていく場合も行動を制限するのではなく、一緒に出ていく体制を整えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止の徹底を図り施設内外研修にも参加し、意識の向上を図っています。日々の生活の中でも職員間の意見交換を行い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修・外部研修で権利擁護に関する制度の理解を深める努力を行っています。 社会福祉協議会との連携により一人の方の活用につながって居ます。今後も、連携を図り活用できるように支援していきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不明な点が残らないように、重要事項説明及び契約内容について、十分説明、話し合いを行い理解納得の上にて契約をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<p>日々の生活の中で、個々の利用者の想いをくみ取り、対応できるよう努めている。玄関に意見箱を設置し、書面にて苦情相談を受け付けていることを明記している。又、意見や要望があれば運営推進会議などでも話し合うことにしていますし、面会時にその都度お話をお聞きし、ご意見などもお聞きするようにしています。</p> <p>また、利用者より希望があった時には一緒に買い物や外食に行ったり、誕生日には希望を聞いて作らせて頂いています。</p>	毎月、写真入りのお便りを発行し、ホーム内での様子や行事、スタッフの紹介などもしています。お便りには、「居室担当より一言」と個別の通信欄も設けており、一人ひとりの様子を伝えています。日頃から家族の来訪も多く、できるだけ職員から積極的に働きかけて、家族が意見や要望を出せるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のグループホーム会議では管理者を含み全員出席とし職員の率直な意見を交換できる機会を設けて、意見の反映に努めている。</p> <p>オムツに関しては伝達研修を行ったり、メーカーによる研修を行い、スタッフが意見を出し合いオムツを選んだ。</p>	<p>管理者は、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、職員の想いを把握する努力をしています。また会議では自由に意見が出せるよう、雰囲気づくりに努めています。会議で出された利用者に関するケア内容や研修希望などの意見は、可能な範囲で実行できるよう話し合っています。風通しの良い関係、研修などの取り組みは、職員のモチベーションのアップに繋がっています。職員が働きやすい環境作りにも力を入れており、配置転換など、人事に関する希望を聞く体制も整えています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個々が働きやすい職場環境の一環として、1ユニット9名ではありますが、日中は4人体制でゆとりを持って仕事しやすい環境を整えています。給与面では、資格手当、能力に応じた算定を行い働きやすい環境づくりに努力しています。</p> <p>給与に関しては、介護職は安いと言われてはいますが、できるだけ生活できる水準に上げるよう努力しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>一人一人と話し合う機会を設け、どのような介護職になりたいのか、研修を受けたいのかを聞きながら、力量にあった研修を個々で選択し受けて頂くように努めています。研修の機会を確保し、研修の費用は会社が負担。外部研修を受けた職員が会議などで、伝達研修を行うようにしています。またオムツのメーカーからオムツやパットの当てる方の内部研修も行っています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市の行う事業者部会や全国セミナーなどを通し、他の事業所との交流を図る機会を設け、サービス向上に取り組んでいます。 また、法人内の研修や外部の方に講演をして頂き、グループホームでの活動の中で改善に向けた検討も行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず現状のグループホームを見学いただき、それにより事前相談や、契約の段階で、本人の思い、不安、要望等を十分にお聞きし、安心していただけるサービスの提供がより良い信頼関係につながると思い日々、努力し、より良い関係づくりを行うように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プライバシーに配慮しながら、家族の思いをよく聞かせて頂き、ご家族の不安を解消できるサービスの提供に努めることがより良い関係、信頼関係が出来ると思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当者を中心に、他の機関や介護支援専門員の方々とも連絡、調整を図りながら、家族、本人のニーズに合った対応に心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>毎日の生活の中で、お互いに支援する、されとの関係だけではなく、共に生きる姿勢を持ちながら、普通の生活を続けていけるような支援関係を築く努力を惜しまないように努めています。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>何事もホームの職員だけの判断ではなく、毎日の生活の些細なことも家族に伝え同じ想いを常に持ち、家族との絆を深める努力を惜しまず、共に支え合っているもの同士として、より良い関係づくりをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>いままでの生活や家族関係にも配慮しながら、面会・外出、外泊などまた、行事の参加をして頂いています。</p> <p>また昼夜問わず面会に来ていただくことが可能なことを伝え、それにより気兼ねせず面会に来ていただいています。</p> <p>また、気軽に自宅に帰れるように可能な限りの支援を行っています。</p>	<p>入居後も在宅で関わっていた人との関係継続に向けて、積極的に取り組んでいます。その一つが在宅関わっていたケアマネジャーや家族へホームの行事や施設の様子を便りで知らせることで、情報提供することで、行事などの機会に、ケアマネジャーや友人が訪ねてくることもあり、利用者の楽しみに繋がっています。仕事をしている家族も多い事から、できるだけ家族と関われるように、面会時間は設けていません。また、家族の協力を得ながら、入居前からの理美容院の利用や馴染みの店への買い物、利用者、家族の希望による外泊や行事への参加など、実現できるように支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ひとりの性格や、感情の変化を理解し、より良い関係を生活の中で築いていただけるようにしています。関わりを持つことが苦手な方に対しては職員が間に入ることにより孤立を防ぎ、利用者同士が自然にかかわり、支え合える支援に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了された方々の家族様にも会報誌を送らせていただいたり推進会議に参加して頂き互いの近況を報告し合っています。それにより終了後ならではの貴重な意見を窺うことも出来ました。また、今後も関係が続いていけるよう努めています。</p>		
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の生活の中での会話や、言葉、表情等記録に残し、其の方の思いや意向を把握できるように努めています。生活歴・出来ること、できない事シート、アセスメントからも把握に努めています。</p>	<p>言葉での表現が難しくなった利用者もいますが、できるだけ働きかけを行い、その方の表情から思いを読み取るように努めています。家族からも情報を把握し、利用者の意向や暮らしのこだわりを大切にされた支援に取り組んでいます。入居前からパン好きな利用者、単にパンを提供するのではなく、一緒に買い物に行き、その方の好きなパンを選択してもらえるような場面づくりをしています。一人ひとりの思いをくみ取りながら利用者の暮らしを支援しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り本人・家族・関係者の方々よりお聞きし可能な限り情報収集を行っています。又、日々の生活や会話の中から聞き取り把握に努め又家族の方の協力で生活歴を作り個々の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの現状の出来ること、できない事を把握し、ご家族、本人からも要望を聞き、個々の生活リズムを把握、本人にあった生活が提供できるように努めています。月1回の会議の中でも確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人らしく暮せるために、日々の生活の中で、家族には来所時または電話で思いを確認し、必要に応じ、主治医・看護師などとも協力いただき、意見を反映した介護計画を作成するように努めています。</p>	<p>入居までの生活についての情報を把握し、詳細に記録に残しています。利用者一人ひとりの「できること」「できないこと」、幼少時から現在までの「していたこと、人との関係や住まいの場所」などの生活歴も丁寧に記載しています。入居直後の数週間は、ホームでの様子を詳細に観察し、利用者の思いを把握したうえで計画を立案しています。居室担当者を決めており、利用者や家族の希望、日々の様子を記録に残し、カンファレンスで情報交換を行い、介護計画に反映しています。計画は、利用者に変化があった場合や概ね6か月毎に見直しをしています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入所時には初期観察記録を書き個々の情報収集を職員で共有しています。情報共有の為、職員ノートを活用。気づきや、工夫等個別記録に残し、常に職員間で共有し、全体会議で話し合い介護計画の作成を行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人の希望に応じ、併設のデイサービスで自由に過ごして頂くなど、その時々ニーズに合わせて柔軟な対応を行っています。</p> <p>又、少なくとも、月1回は外出に出かけたり、お天気が良ければ、散歩や買い物に出かけたりその時々で柔軟に対応できるように努めています。</p> <p>また、家族の方のお泊りや一緒に食事して頂くのも可能でお声をかけ、初めて看取りをさせて頂いた際、家族の方は、最期の夜と一緒に泊まれスタッフと共に看取って頂きました。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>クリスマス会にはお世話になっているケアマネージャーの方が、オルガンの演奏をしに来て下さったり、スタッフの子どもイベントに参加し楽しんで頂きました。最近では近所のお子さんが気軽に訪問し楽しんでいただいています。地域の秋祭りには声を掛けさせていただきホームの前までだんじりに来てもらい地域の子供達とも交流をはかる事ができました。また、セラピー犬遊びに来て動物とのふれ合いも大切にしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所時にお話を伺いご希望の主治医に診て頂くようにしています。内科医の月2回の他にも24時間連絡をすればすぐに駆けつけて下さる体制をとっています。また週2回の看護師と往診医の連携のより些細な変化もすぐにわかるように情報を共有しています。</p> <p>他の医療機関へはホームでの様子が記録されたものをお渡しし家族付き添いで行かれ、行けない時はホームで行かせて頂いています。</p> <p>本人や家族の希望を重視し、家族の協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援しています。</p>	<p>入居後も利用者・家族の意向に沿ってかかりつけ医や病院への受診を支援しています。かかりつけ医の受診時には、家族が対応していますが、必要に応じて、職員も付き添っています。家族だけの付き添いで受診する場合は、ホームの経過記録を家族に渡し、医療機関へ情報提供しています。内科医や看護師との連携が密にあり、緊急時の対応も可能です。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週2回看護師に来ていただいています。日々の心身の状態や情報、気付きなどを伝え、指示を受けています。又、緊急時には24時間体制で対応して頂き、主治医との連携を密にとり適切な受診や看護が受けられるように支援しています。</p> <p>訪問時には個々の記録を残し、職員が共有できる体制になっています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時は必要情報の提供に努め、入院時の経過報告の確認を行っています。退院時には療法上の注意点等の現状把握に努めご家族とも密な情報交換を行い、スムーズな支援を行うように努めています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期を迎えるにあたり、本人の意向や家族の意向を考慮し、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作っています。支援方針を共有する為に、Dr・Ns.ご家族・スタッフ全員で会議を行います。その上で交換ノートを作り全員で情報を共有します。</p> <p>密に話し合い本人、家族の意向を踏まえ、グループホームでの出来ること出来ない事を互いに確認し合い、家族の方が納得したうえで、主治医、訪問看護師との連携を図りチームで支援に取り組みます。</p>	<p>「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成し、看取りに関する考え方を示しています。入居時に、ホームでできること・できないことを説明した上で、家族や利用者の意向を確認しています。入居後も利用者の状態に応じて、医師や看護師を交えて話し合い、利用者、家族の意向を確認しながら看取りへの対応をしています。ホームで看取った利用者の家族とは、現在も関わりがあります。利用者と一緒に家族宅へお参りに行き、家族も運営推進会議に出席する事もあり、看取り後も関係を継続しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に訓練を行い、実践力を身に付けていきたいと思っております。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を行っています。内1回は消防署の方にも協力して頂き、火災発生時の対応の仕方、消防署への通報の仕方や避難訓練を行い、消火器の使い方の練習の時にはご近所の方も参加して頂きました。また防災設備会社より消火訓練と設備の点検にも来て頂いています。スプリンクラーや火災通報装置連動停止スイッチも設置しました。 万一に備え水やチョコレートを地下に保管し、日常の食材は食品庫に保管しています。防災グッズもひとまとめに準備しています。 これからも、協力体制を築き、より安全に生活が出来るように努めたいと思っております。</p>	<p>災害時マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施しています。内1回は消防署の指導のもと火災発生時の対応の仕方、消防署への通報の仕方や避難訓練を行っています。消火器の使い方は、地域の方も参加し一緒に練習しました。夜間2名の勤務体制や連絡網の整備等、災害対策に工夫しています。災害時に備えて、水や食料品は日常の食材として食品庫に保管しています。地下倉庫には水・紙おむつ・防災グッズや保存食も備蓄しています。備蓄の準備はしていますが、備蓄の食品について賞味期限の管理確認が必要な状況です</p>	<p>倉庫の備蓄について賞味期限をわかりやすく明記する等して管理をされてはいいかがでしょうか。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は自分に置き換え、心地よいケアや声掛けを心がけています。また一人一人のペースに合わせて対応しています。	管理者は職員に、自分がケアをされた時に心地よい言葉かけや対応をするよう伝えています。周囲に配慮した排泄時の言葉かけ、居室室時にノックをするなど、日々のケアの中で、具体的な実践に向けての対応を話し合っています。一人ひとりの生活リズムや意向に沿った対応を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は自分に置き換え、心地よいケアや声掛けを心がけています。また一人一人のペースに合わせて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	プログラムは用意せず、職員が利用者の気持ちや希望を把握し、利用者のペースで一日を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	初めて毛染めを希望される方がおられたので、訪問美容師に相談しているところです。このようにその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように、希望に沿って支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日や節目のお祝いごとにはお一人ずつに好物を聞きメニューに取り入れています。他には皆で鍋を囲んだり、お好み焼きや焼きそば・鉄板焼きを前で焼いたりとする過程から楽しんでいただいています。また出来る人には副菜副食の取り分けや、配膳、後片付けも手伝ってもらっています。また食器もプラスチックではなく、危険に配慮しながら陶器やガラスの器を使用しています。玄関先のプランターで栽培しているネギやイチゴを収穫し召し上がって頂いています。	食材は、宅配を注文し、商品が届いた時は利用者も一緒に確認しています。それ以外に新鮮な野菜や必要な物は、利用者と一緒に買い出しに行き、利用者は長年培った生活者の目で選んで買っています。朝夕食とおやつはスタッフが交代して作り、昼食は調理専門の職員が作っています。キッチンからおいしそうなおいがリビングいっぱいに漂っています。 大きなテーブルを職員も一緒に囲んで、ゆっくり食事を楽しんでいます。食器は陶器やガラスの器を使用しています。敷地内のビワやイチゴが食卓に出ることもあります。普通食が困難な利用者には刻み食やとろみ食を作りスタッフが声かけしながら介助しています。おかずの盛り付けやテーブル拭きや下膳など利用者もできることは手伝っており、自宅で暮らしているような雰囲気になっています。その他外食や誕生日会メニューなどの楽しみがあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え献立を作り一人ひとりの食事量の把握をしている。水分についてはこまめにお出しし、必要に応じて記録し把握している。またその人に応じて細かく刻み、ミキサーやとろみを使用するなどの配慮をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできない方には、スタッフが支援しています。その他の方には、声をかけ、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援を行っているが、毎食後はできていない方もおられます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄できるよう一人一人の排泄パターンを把握し声かけや誘導を行い、その方の能力に応じ見守りや介助を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけ、トイレでの排泄を心がけています。2人介助でトイレ誘導を行っていた利用者が、トイレで立位姿勢を取ることで下肢筋力がつき、立位姿勢が維持できるようになり一人介助が可能になった人もいます。カンファレンスで、おむつについて話し合いを行い、支援の統一を図っています。紙おむつを使用していた利用者が、布パンツとナプキンで過ごせるようになりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防対策として毎朝食に腸の活性化に良いとされているヨーグルトや果物を食べて頂いています。また、食事は野菜を中心に1日30品目を摂取して頂く工夫を行い、それでもなお便秘気味の人には牛乳を飲んでいただき、水分を多い目に摂って頂いています。運動や体操も取り入れ、ご自分で出来ない方にはマッサージも行っています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂好きの人には毎日入っていただいたり、ご本人が希望される時間帯に入浴していただいたり、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴支援をおこなっています。また好みのシャンプーやリンスなどがある方は、用意して使用して頂いています。	隔日の入浴が基本ですが、毎日の入浴も可能です。浴室は明るく広く清潔で、リフトを設置し、重度化した利用者も安心・安全に入浴できます。本人の好みや個人の肌質に合ったシャンプーを用意する等、細かな配慮を行っています。入浴嫌いな利用者には、タイミングをみての声かけ、気の合うスタッフが声かけするなど工夫して、気持ちよく入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の居室やソファ、またリクライニングチェアで自由に休息して頂き夜間は居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬についてほぼ理解しておりその人の力に応じた服薬支援を行っている。症状の変化を確認している。特に便秘薬などは排便状況を把握し医師の指示のもと薬の調整をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の力に応じ、掃除や洗濯物干しやたたみ、食器拭き、食事用意などを手伝ってもらったり、散歩、外気浴、買い物で気分転換してもらったり、おやつを一緒に作ったりしています。またぬり絵や写経など興味のある事に取り組んで頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って、戸外に出て外気浴や近隣を散歩してご近所の方とお話したり、また本人の買いたいものなどは一緒に買い物に出かけご自分で選んで頂いています。概ね月1回全員で外食や美術センターの他にも個別で希望される所へ出かけています。	日常的に、ホーム前に出たり近隣を散歩したりしています。初詣、季節ごとの花見、外食、美術館鑑賞等、行事としての外出の機会は多くあります。地域のお祭りに行くこともあります。近くのスーパーへ食材やおやつの買い物に利用者も一緒に行っています。家族と定期的に帰宅・通院・食事・喫茶店訪問・買い物等で外出する利用者もいます。夜、ホームの前の川へ、ホタルを見に行く利用者もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>何人かの方には少額の現金を持っていただいているが、基本的には金銭管理は職員で行っています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望される時は職員が取次ぎをして電話をかけていただき、ご自分で書いた手紙を出されたりもしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	金魚の飼育や季節の花を飾るなどし、自然の風を取り入れて季節感を感じてもらっています。リビングの天井は高く空間の広がりがあり、窓からの採光で部屋は明るく、リビングには床暖房を完備しています。トイレや浴室など常に清潔を保ち消臭を心がけ、トイレにも気温差が生じないように暖房を入れ、ドアにもわかりやすく大きな絵を表示し、快適に過ごして頂く工夫をしています。	リビングの天井は高く、窓からの採光で室内は明るく、空間の広がりがあります。玄関先には花を植えてあり、室内から眺めることができます。リビングの壁面には、利用者の笑顔の写真や季節が感じられるように装飾を工夫しています。七夕祭りに向けて、七夕のパッチワーク、笹に短冊を飾り季節を楽しみます。リビングから、玄関先のプランターの花を眺められるよう、ドアを網戸にして、四季の変化を感じることができます。台所での調理の音・におい、夜店で釣った金魚が泳ぐ水槽、日常生活で五感を刺激しています。トイレ前の椅子、入口のソファは、一服するための空間となっています。また、玄関先に椅子を置いてあり、外気に触れながら向かいのデイや宅老所、近隣住民と交流する場となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファや、リクライニングチェアを置き、その方の一番落ち着く場所、居心地のいい場所で思い思いに過ごして頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談し本人の使われていた家具などを持って来て頂いたりして、ご本人が住み慣れていた部屋の雰囲気に近い家具の配置などの工夫をしています。又畳で生活されていた方には畳の居室で過ごして頂いています。	居室は、畳の部屋とフローリングの部屋があります。和室で生活されていた方で、畳の居室が空いていない時は、フローリングにマットを敷いて、畳の居室にして過ごしています。入口の暖簾は利用者に合わせてホームで用意しています。居室は使い慣れたタンスや椅子、洋服かけ、テレビを置き、家族の写真、ぬいぐるみ等に囲まれ、落ち着いた雰囲気になっています。窓からは心地よい風が入っています。身寄りのない利用者の居室は管理者と一緒に必要な家具等を揃えるなど、過ごしやすい居室になるように取り組んでいます。また、親しくしている以前のケアマネジャーとその家族と一緒に撮った写真を飾っています。利用者の一人ひとりの想いを大切にし、その人らしく安心できる居場所となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることを理解し、その人の力に応じた行動を見守り、安全に過ごせるように工夫しています。		